

琉球大学学術リポジトリ

米国管理下の南西諸島状況雑件 沖縄関係 日本政府
援助本土米供与(産業開発資金)(2)

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43578

対策、予、供、与、計、画

答

極 秘
無 期 限
部 の 内 号

五内閣 総務参事官	政策課長	アメリカ局長 参事官
国際貿易課長	北米才二課長	北米才一課長
国際機関課長	専門機関課長	

1972 年度の対沖縄本土米供給計画について

45. 12. 3
米北一

(1日)

1. 沖縄北方対策庁振興課より、別添へハコヒテ、
1972 年度における本件計画の同庁方針を連絡

越えたい。2日、亀谷全庁振興課長は各課佐
孫事務官に対し、72 年度、米国産米穀の沖縄向け

輸出は 8,000 ~ 10,000 トンを確保せよと琉球
政府を指導したい旨述べた。

2. ついては、72 年度の計画は、上記ライン²¹に
1971 年度の計画は本土米 50,000 トンの供給

GA-5

外務省

2838

に申し入れ

を行政のこころで、在京米大使館 ~~と交渉~~

右記の旨を

GA-6

外務省

秘

1972年における沖縄への米穀の供与に
 ついては、その復帰時期が確定しないことある
 ので、明1971年にその見通しを定むべきである
 が、仮りに本土政府が40,000トン以上の
 供与する場合に於て、沖縄における米穀の供給事情
 を勘案の上、米産米穀の沖縄への輸出
 をあわせておこなうよう、今後琉球政府
 を指導することとする。

なお具体的な数量については、明夏
 改めて日米両政府が協議することとする。

極 秘
 無 期 限
 部 の 内
 号

(経) 総務参事官 政策課長 アメリカ局長
 国際貿易課長 北米才二課長 参事官
 国際機関第一課長 専門機関課長 北米才一課長

沖縄向け本土産米供与計画

45.12.8
 米北一(森)

1. 8日、沖縄・北方対策庁振興課(松井参事官)
 より、1971年度及び1972年度における本土産米穀の
 琉球政府へ売渡数量に関し別添へんべい
 を指示するとともに、以下の説明をおこなった。

(1) 本へんべいは、主として1972年度における本件計画
 に関する対策庁方針についての外務省からの照会に
 答えるもので、対策庁長官の決裁を得たものである。

(2) 1972年度の売渡数量は沖縄の本土復帰の
 同年の

時期によって変動するもので、現在の具体的な量を
あはらすことができないので、これについては 明1971

年夏頃になって、(普通一年の稲作植付前^(米穀)に買収契
約が行われる由。)見通をたて、米側と協議相

とせも原則としたい。

(3) 復帰の時期を1972年7月と仮定して、その

際本土産米40,000トンと沖縄向の売渡すことが可能
となる場合は、米産米の沖縄への輸出について

も琉球政府を指導していきながら、この場合にも、

現在仮定の復帰時に基^(要)として米産米の
上記の数量に基^(要)づく

沖縄向の輸出数量^(要)約9,000トン(参考2の(2)
従来^(念入りに)の沖縄は特需給計画が、外国産米は

米、加州米に限られる由。)につき、米側
にコミットするのは妥当であると考えている。

(4) 過日、復若・同庁振興課長が佐藤
北米一課事務官に、'72年米産米の

沖縄向の輸出8,000~10,000トンの確保
について説明したのは、あくまで上記仮定

に基^(米側可能)いた輸出量の~~見通~~見通を参考として
算定したものである。これに米、対策庁としては

右'72年米側輸出数量を仮定し見通に
して参考として米側に話せば是支えないと

思いますが、2年後の米産米穀の沖縄向の
輸出数量を現在、互方に確約することは

できないと考えている。

又、ついでに、1972年本土産米の沖縄向の売渡
数量については、上記対策庁方針のラインをい

在京米大使に申入れ、在ることを踏まえてい

本土産米穀の琉球政府への先渡しについて

45.12.2
塚 栄 彦

1 1921年における本土産米穀の琉球政府への先渡し量は
50,000トンの(精白ベース、以下同じ)とある事

2 1922年における先渡し数量については、その復讐時期が確定しないことあるので、明1921年にその見通しをたてるべきであるが、例に本土政府が40,000トンを先渡し場合には、沖縄における米穀の供給事情をも勘案のうえ、米回産米穀の沖縄への輸送もあわせおこなえるよう、今後琉球政府を指導するにとする。

なお具体的な数量については、明夏あうため、日本内政府に相談するにとする。 別紙

参考 1 1921年沖縄の米穀供給見通し (精白ベース)

(1) 1920年12月末在庫量	25,580ト	5,850ト
(2) 1921年総需要量	10,000ト	14,900ト
外回産米穀	23,290ト	
島産米穀	2,290ト	

総 理 府

1920.12.12
1921.12.12
1922.12.12

1922年12月12日
1921年12月12日
1920年12月12日
原村 隆
佐藤 隆
佐藤 隆

$$86,244 \text{ t} - 25,580 \text{ t} + 2,289 \text{ t} = 68,953 \text{ t}$$

(当年の繰越量) (翌年の繰越量)

$$68,953 \text{ t} - 50,000 \text{ t} - 10,000 \text{ t} = 8,953 \text{ t}$$

(本土産米穀) (島産米穀) (外国産輸入量)

(3) 外国産要輸入量 (玄米ベース)

$$8,953 \text{ t} \div 82\% \approx 10,000 \text{ t}$$

2. 1922年当学期における沖縄の米穀供給見通し (精米ベース)

1~6月 7月後 需給不足

(1) 総要要量

$$43,584 \text{ t} - 2,289 \text{ t} + 12,000 \text{ t} = 42,095 \text{ t}$$

(当年の繰越量) (DPの繰越量)

$$42,095 \text{ t} - 40,000 \text{ t} = 2,095 \text{ t}$$

(本土産米穀) の不足を要する

(2) 外国産要輸入量 (玄米ベース)

① 所産の米を消費し足りない

$$2,095 \text{ t} \div 82\% \approx 2,500 \text{ t}$$

不足を要する

3. 沖縄の指定と業者が所有している倉庫

仕入れ 輸出 倉庫

(1) 能力

10棟 4,990 t 40,300 t 能力

2年分の費用は100万円

(2) 区分

普通倉庫 20,500 t 30,500 t 2800 t 倉庫

倉庫口 19,800 t Confirm 2300 t

総 理 府

B-1 米穀消費調査 (100300)

この報告は 米穀消費調査の報告書である

本土産米穀の琉球政府への先渡しについて

45.12.2
坂大 操

1 1921年における本土産米穀の琉球政府への先渡し量は
50,000トン(精白ベース。以下同じ)とす。

2 1922年における先渡し量については、その復讐時期が確
定しないことあるので、明1921年とその見直しをたてるべき
であるが、仮りに本土政府が40,000トンを先渡し場合ならば、
沖縄における米穀の供給事情を勘案しつつも、米回産米穀
の沖縄への輸出もあわせおこなえるよう、今後琉球政府を
指導することとする。

なお具体的なお量については、明夏あつたため、日本内政府
が報告することとする。

参考1 1921年沖縄の米穀輸出入見直し(精白ベース)

(1) 1920年12月末在庫量	25,580 トン	
}	外国産米穀	23,290 トン
	本土産米穀	2,290 トン

(2) 1921年総消費

$$86,244 \text{ トン} - 25,580 \text{ トン} + 2,289 \text{ トン} = 68,953 \text{ トン}$$

(当年の繰越量) (翌年の繰越量)

$$68,953 \text{ トン} - 50,000 \text{ トン} - 10,000 \text{ トン} = 8,953 \text{ トン}$$

(本土産量) (国産量) (外国産量)

(3) 外国産受輸入量 (玄米ベース)

$$8,953 \text{ トン} \div 82\% \approx 10,918 \text{ トン}$$

2 1925年中期における沖繩の米穀供給見直し (精米ベース)

(1) 米穀消費

$$43,584 \text{ トン} - 2,289 \text{ トン} + 12,000 \text{ トン} = 42,995 \text{ トン}$$

(当年の繰越量) (当年の繰越量)

$$42,995 \text{ トン} - 40,000 \text{ トン} = 2,995 \text{ トン}$$

(本土産量)

(2) 外国産受輸入量 (玄米ベース)

$$2,995 \text{ トン} \div 82\% \approx 3,652 \text{ トン}$$

3 沖繩の指定米倉が所有している倉庫

(1) 能力
10棟 4,990 トン、40,300 トン計

(2) 使用
米穀倉庫 20,500 トン
倉庫 19,800 トン

総 計

昭和42年度上半期 米穀帯估計画 (精米7-2)

区 分	7/12月	7/1月	2月	3月	4月	5月	6月	計	
入 荷	本土産米穀		8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	40,000	
	外国産米穀			500			2,295	2,795	
	島産米穀								
計		8,000	8,500	8,000	8,000	8,000	2,295	42,295	
販 売	本土産米穀		4,501	6,964	2,064	2,264	2,264	2,264	40,321
	外国産米穀		347	300	200				847
	島産米穀		2,416						2,416
計		2,264	2,264	2,264	2,264	2,264	2,264	43,584	
在 庫	本土産米穀	5,026	8,525	9,561	10,997	11,233	11,969	4,205	
	外国産米穀	347		200				2,295	
	島産米穀	2,416							
計	2,289	8,525	10,111	10,847	11,583	12,319	12,000	12,000	

加増

7月より本土産米穀法適用

昭和46年度 米穀需給計画 (精米7-2)
GRI 案

玄米 6,000t
45.12.12
振興課

区分	45/12月	46/1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
入荷	本土産米穀		6,797	7,255	5,441	7,255	5,441	5,441	5,441					50,000
	外国産米穀		1,000	500		500		500	500					8,953
	島産米穀計		1,000	7,255	5,441	7,255	5,441	13,141	5,941	220	5,233	7,342	6,484	10,000
販売	本土産米穀				1,690	6,995	6,995	5,200	5,500	5,900	3,497	3,000	5,200	44,924
	外国産米穀		6,000	6,090	2,195	5,505	200	200	300	500	100	2,506	3,000	31,896
	島産米穀計		1,190	1,100				1,264	1,264	1,264	1,264	1,264	1,264	9,824
在庫	本土産米穀				7,255	11,006	11,266	7,212	9,453	9,397	3,497		4,212	5,026
	外国産米穀	23,290	18,290	12,200	5,505		300	100	300	300	420	3,147	647	347
	島産米穀計	2,290	1,100						5,936	4,672	3,908	2,144	880	246
		25,580	19,390	12,200	12,760	11,006	11,566	9,812	15,689	14,366	7,322	5,291	5,769	7,789

23,290
 2,290
 25,580
 18,290
 1,100
 19,390
 12,200
 12,760
 11,006
 11,566
 9,812
 15,689
 14,366
 7,322
 5,291
 5,769
 7,789
 68,953
 25,580
 86,744
 7,789
 17~18.00
 15,000~20,000
 14月分
 (2ヶ月分) - (在庫)
 流通調整 - 在庫管理は重要
 4月 - 電力一杯
 在庫管理の重要性

アメリカ局長
参事官
北米第一課長

本土産米の対沖縄供与

46. 1. 13
米北一

本件に關し、1971 年度における米国の沖
縄向け輸出量^(産米)については、在京米大使館
側^{の趣意を伝える}に対し、下記~~の交渉経過を記載する~~
の趣意を伝える

ことにつき、本 13 日午後、対策振興課(松
本 桜井課長補佐)の了解と確認を得たので、
左 報告とする。

記

「琉球政府は、1971 年度において、本土産米
50,000 トン、沖縄産米 10,000 トン

合計 60,000 トンを入荷するとしてお
きの、月平均では 5,000 トンが入荷^{いる}する

ことである。

一方、沖縄では、琉球政府指定の 5 業者

が所有する倉庫の米穀収容能力は、
総計 40,300 トンであるが、この倉庫には

現在、1970 年度からの繰越^{合計} 25,580 トン
の米が在庫中である。

上記在庫収容能力合計 40,300 トンに
対し、本土^産米と沖縄産米^をを合せて

月平均 5,000 トンが入荷するとしても、
この 5,000 トンは、沖縄における米の需

給状況からみて、当該月物に在庫
されるものと考えられるので、理論的には

在庫収容能力 40,300トンと 1970年
年からの繰越量 25,580トンとの差

14,720トンは常時、この倉庫の収容
可能な量とみられる。

~~この月々の収容可能量に対し、外
国から如何程の米を輸入するか~~

~~については琉球政府の米穀需給
計画等に対する対応あり、従~~

~~って、米国の沖縄向け輸出の量に
対し、上記倉庫の収容能力を~~

~~踏まえ、米側におき、琉球政府及び
沖縄の米穀業者と直接話し合~~

~~わす。~~